


# 利用者の情報行動

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科  
大学図書館職員長期研修  
(筑波大学図書館情報メディア研究科)

1



## 講義の概要

1. 大学図書館における「利用者」
2. 利用者の情報行動を理解する枠組
3. 実際の調査に見る「利用者の情報行動」

2

## 大学図書館における「利用者」

- 「研究者(院生を含む)」  
利用パターン(情報源, ニーズ)の確立  
⇒ 研究領域との関連
- 「学部生」  
研究領域, 専門知識に関する知識がない  
ために予測不能な動きをする

どちらに合わせたサービスを  
展開すべきか？

3

## 「研究者」の行動パターンの解明

- 「学部生が中心」という意識  
では、学部生はどのような利用をするか？
  - － 「場所としての図書館」を利用  
(コピー、試験前の勉強スペース)
  - － 講義で指定された課題のために利用  
(行動枠組は講義担当者の指示に基づく)

研究者の行動パターンを知る必要性

4

## 図書館利用者調査における意識

- 個別的、直接的な理解をしようとする  
目の前にいる利用者が何を考えているか  
図書館をどう利用しているか  
何を期待しているか
- ⇒図書館利用を独立した行為としてとらえる  
自由回答などで直接的な表現を得ようとする

5

## 社会的機関としての図書館

- 人々が日常生活(研究活動)の中で、いかに図書館を位置づけているかに注目  
⇒集団としての利用者を知る
- 人々が様々な情報源をいかに使い分けているかに注目  
⇒図書館が提供すべき情報源やサービスを考える

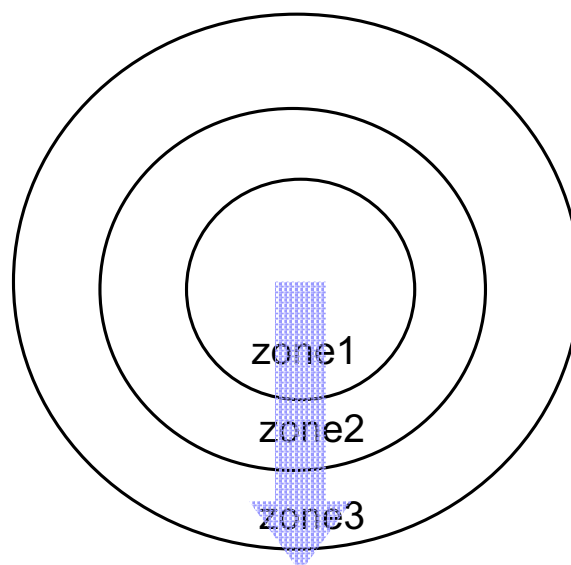
6

## 情報実践アプローチ

- 人々の情報行動を相互作用でとらえる
- 情報実践
  - ＝内的に関連した複数の活動から構成
  - 情報源やチャネルの認識、アクセス
  - 情報の適合性判定
  - 他者との情報共有
- プロセスをリニアに表現するというような単純な図式にはならない

7

## 情報源の地平

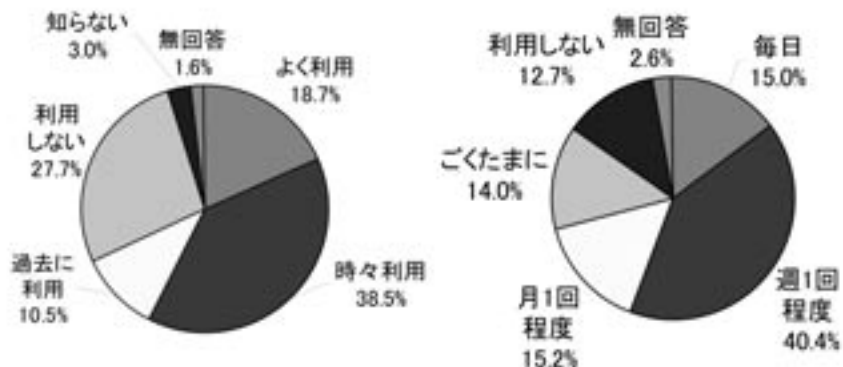


8

## 電子メディアの出現と図書館 (1)電子ジャーナルの普及

1999年調査

2003年調査



9

## 電子メディアの出現と図書館 (2)図書館への来館

- 図書館を(来館)利用する頻度が減った  
「はい」の割合
 

物理学	78.3%
化学	78.0%
病理学	72.6%
- Webの閲覧頻度が上がったという回答  
(8~9割)と反比例の関係

10

## 電子メディアの出現と図書館 (3)研究者は動きたがらない

- 自席のPCを使って、ネットワーク情報源を探索し、利用する
- 日本の医科学研究者  
(大学以外の研究機関に所属の333名)  
... 86.2%
- 関西学研都市の研究機関に所属する研究者  
(文系から理系まで696名)  
... 86.9%

11

## 図書館と競合するのはネット環境

- 来館という利用形態は激減  
ただし、利用者は図書館を不必要と考えているわけではない
- ⇒ 図書館はネット環境に依存する利用者に働きかける必要性
- = 来館せずにサービスを楽しむ枠組構築  
(来てもらうという発想を捨てる)
- ⇔ 来館利用者のみを対象とするという考え方も

12

## 研究者にとっての「情報」: 化学分野の場合

学術雑誌論文(印刷版)	92.5%
学術雑誌論文(電子版)	73.0%
大学・研究所のサイトにある論文	15.2%
会議論文(電子版)	2.3%
著者のサイトにある論文	5.8%
プレプリント・サーバ	4.6%
その他	0.6%

(複数回答)

13

## 学術雑誌の圧倒的優位性

- 学術雑誌に匹敵するメディア  
匹敵するようなものはない 2.5~4割  
物理学 e-print archive(41.3%)  
病理学 大学・研究所のサイト(35.6%)
- 研究者にとって学術情報を入手するメディア  
は「学術雑誌」(印刷版・電子版を問わず)

14

## 雑誌論文の入手形態

- 電子ジャーナル導入以前  
雑誌のまま . . . . 1~2割  
印刷版の雑誌から論文だけ複写  
. . . . 8~9割
- 電子ジャーナル導入以後  
印刷版の雑誌から論文だけ複写 . . . . 2割  
PDFファイルをDLして印刷 . . . . 6~7割
- 「雑誌論文」単位での扱い
- ジャーナルというパッケージは意識されない

15

## 研究者の情報入手プロセス

- あらかじめ決まったタイトルを定期的にブラウジング
- 書誌DBを検索し、検索結果を手にも図書館に来館、現物を複写

電子ジャーナルの導入によって変化したか？

16



## 電子ジャーナルの出現と個人購読

- 「個人購読」をやめた雑誌がある  
「はい」の割合

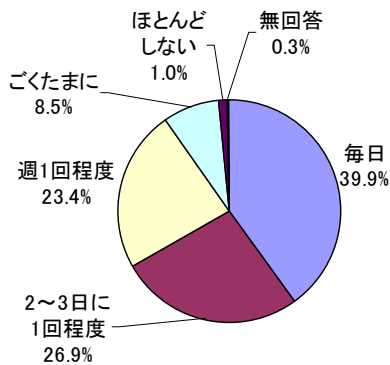
物理学	21.1%
化学	22.2%
病理学	27.5%

- 重要なジャーナルについては、  
学会員になるなどして、個人で入手  
電子ジャーナルになっても変化なし

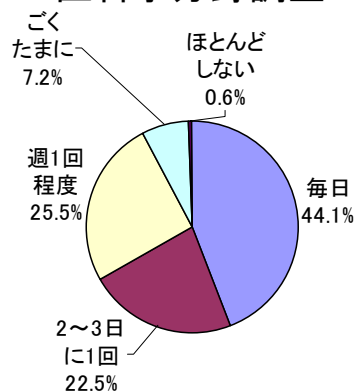
17

## 情報検索の頻度

- 関西学研都市調査



- 医科学分野調査



18

## 雑誌論文へのアクセス方法

### (1) 関西学研都市調査

DB検索後, 結果を基に印刷版雑誌を見る	31.5%
DB検索後, 結果を基にEJにアクセスする	25.4%
DB検索後, 結果のリンク機能を使ってEJの全文へアクセスする	10.0%
出版社・学協会のAlertサービスからリンク機能を使ってEJの全文にアクセスする	2.0%
雑誌の決まったタイトルを定期的に読む	20.7%
出版社のサイトにある論文検索機能を使ってEJの全文にアクセスする	2.8%

19

## 雑誌論文へのアクセス方法

### (2) 医科学分野調査

DB検索後, 結果を基に印刷版雑誌を見る	25.3%
DB検索後, 結果を基にEJにアクセスする	31.5%
DB検索後, 結果のリンク機能を使ってEJの全文へアクセスする	17.0%
出版社・学協会のAlertサービスからリンク機能を使ってEJの全文にアクセスする	4.0%
雑誌の決まったタイトルを定期的に読む	16.0%
出版社のサイトにある論文検索機能を使ってEJの全文にアクセスする	0.9%

20

## 研究者の情報行動

- コアジャーナルは個人購読, 個人リンク
- それ以外の多くの論文に関してはデータベース検索の後,
  - － 図書館へ来館, 冊子体雑誌を複写
  - － 電子ジャーナルにアクセス
- 後者の割合がかなり多い
  - ＝ データベース検索 ⇒ 論文本体
  - という流れをスムーズにして欲しい

リンキングシステムへの期待

21

## 研究者の電子ジャーナルへのアクセス

図書館の電子雑誌リストから	45.6%
ブラウザに登録してあるURLから	35.8%
サーチエンジンで雑誌名を検索して	4.8%
学会や機関のサイトからリンクをたどって	10.5%
Webで偶然見つけたURLから(不定期)	1.4%
無回答	1.9%

(物理学のデータ, 他分野も同傾向)

22

## 利用者の入手する情報

- 研究者にとっての情報＝学術雑誌  
⇒電子ジャーナルへのアクセスが最優先事項  
電子ジャーナルリストの整備
- 情報入手の局面では論文単位で認識  
ジャーナルのパッケージに対する意識は低い  
(タイトルが意識されるのは、論文評価の局面)

23

## 研究者の情報行動プロセス

- DB検索, 文献情報の入手
- 図書館の提供する電子ジャーナルリストから  
必要な雑誌名を探す
- 電子ジャーナルにアクセスし, 必要な文献を  
再度検索, 入手

24

## ネット環境に依存する利用者への働きかけ

- 各種DB (ex. Web of Science)で文献検索  
⇒検索結果と共に入手ルートが表示される  
EJの提供有⇒論文本体へのリンク  
冊子体雑誌の提供有⇒複写依頼フォーム  
提供なし⇒ILLフォーム
- DBから得られる文献情報と文献そのものをネットワーク上でダイレクトに結び付ける

25

## まとめ

- 利用者の情報行動をとらえる際に、周囲の状況・社会的な要素を考慮する  
大学図書館の場合、「専門領域」である場合が多い
- 意識すべきは「彼らは何を考えているか」に関する**彼らの表現そのもの**ではなく、行動の背後に**透けて見える彼らの意識**

26

## 参考文献

- 日本の大学に所属する物理学研究者を対象として、1998年12月～1999年2月実施 回収数(回収率):571票(54.3%)  
⇒倉田敬子, 松林麻実子. “第4章:物理学分野における動向”電子メディアは研究を変えるのか. 倉田敬子編. 勁草書房, 2000
- 日本の大学に所属する三分野の研究者を対象として、2003年2月～3月実施  
回収数(回収率):物理学:775票(54.3%), 化学:494票(48.1%), 病理学:541票(42.4%)  
⇒松林麻実子, 倉田敬子. e-printという情報メディア:日本の物理学研究者への調査に基づいて. 日本図書館情報学会誌. Vol51, No.3

27

- 国立国会図書館委託調査「電子情報環境下における科学技術情報の蓄積・流通の在り方に関する調査研究」(平成15年度～平成16年度)の一環として、2004年12月～2005年3月実施  
回収数(回収率) 696票(41.1%)  
⇒松林麻実子. “関西文化学術研究都市内研究機関に属する研究者の情報行動パターンに関する調査”. 電子情報環境下における科学技術情報の蓄積・流通の在り方に関する調査研究(図書館調査研究レポート No.4)

28